

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人やまなみ会

くわ技研

目 次

I	はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 2
II	生産活動	
	ア 就労継続支援A型	・ ・ ・ ・ ・ 2
	イ 就労継続支援B型	・ ・ ・ ・ ・ 3
	ウ 課題・次年度への提起	・ ・ ・ ・ ・ 3
III	利用者状況	・ ・ ・ ・ ・ 6
IV	職員状況	・ ・ ・ ・ ・ 7
V	防災・防火訓練報告	・ ・ ・ ・ ・ 7

I はじめに

コロナ禍も3年目を迎えた令和4年は、一時的な落ち着きや再拡大を繰り返しながらも社会経済活動の正常化が緩やかに進みつつある年であったが、原材料の高騰等による景気後退の懸念など我々を取り巻く環境は変わらず厳しいといえる。

生産活動においては、令和4年度もコロナ関連による利用者の出勤停止が幾度かあり、生産活動に多少なりとも影響があった。それに加え前年度に引き続き最低賃金上昇や原材料等の高騰による経費支出が増え、財政を圧迫する要因となった。今後も物価高が続くことが予想される中、改めて経費削減内容の見直しを図り、財政収支を改善していかなければならない。

福祉サービスにおいては、体調面・精神面の変化に迅速な対応ができるよう、利用者とのコミュニケーションを図りながら情報を職員間で常に共有し、個々の希望に沿った支援ができるような体制作りを努めた。

利用状況においては、A型利用者の定員割れ解消には至っておらず、引き続き関係機関と連携しながら利用者確保に努める。また、職員不足も続いており、常時職員募集を行い機会あるごとに求人に当たっているが充足には至っていない。今後高齢化や人口減少が本格化していく中で、どのように安定した人数を確保していくかが課題となっている。

II 生産活動について

ア 就労継続支援A型

令和4年度のA型収益額は前年度より約40万円増益となった(前年度比+2%増)。内訳は、役務作業が約160万増益(前年度比+11%増)・豊作業が約120万減益(前年度比-19%減)となっている(※P4表1, 2参照)。役務作業は前々年度より順調に収益が上がってきている反面、豊作業は前々年度より収益が下がってきている。また、材料費(豊)は原材料費高騰の影響もあり、前年度比15%増加となった(※P5表3参照)。仕入れ内容の精査・調達方法の見直しなどコスト削減を図り、販売価格も値上げを検討するなど増益に転じるよう努める。

A型収益の半分以上を占める役務作業についても、野外作業のため閑散期があり、特に1月と2月は収益額が他の月と比べて大幅に落ち込むため(※P5表4参照)、片付け作業など屋内でできる作業依頼獲得増加に努め、閑散期や梅雨時など野外作業ができない時に代わりとなるような新たな事業も検討していかなければならない。

イ 就労継続支援B型

令和4年度のB型収益額は前年度より約76万減益となった。(前年度比-10%減)。内訳は、清掃作業が約18万増益(前年比+3%増)・襖障子作業が約94万減益(前年比-42%減)となっている。清掃作業は平成30年度から毎年収益が上がっており、閑散期もなく年間を通じて作業ができ、かつ材料費もあまりかからず収益性が高いことから今後も安定した収益が見込まれる。

襖障子作業は畳作業同様、前々年度より収益が下がってきていて今年度に至っては50%近くも下がっている(※表1, 2参照)。材料費は前年度より-19%減となっているが(※表3参照)、少数での注文ができないため在庫を抱えやすい状況になっている。まずは在庫を減らし、製品数を絞るなど発注方法を見直し原価率を下げよう努める。また原材料費が毎年のように上がっていることを踏まえ、販売価格改定を検討する必要がある。

ウ 課題・次年度への提起

A型役務作業・B型清掃作業については、今後も収益増額を目指し、積極的に営業活動を展開し受注獲得増に努めるが、作業人数が不足しており、繁忙期は人数不足による依頼キャンセルを出さないよう細かな調整が更に必要となってくる。閑散期は依頼数が極端に少なくなるので、A型・B型ともにできるような新たな事業を検討する。

A型畳作業・B型襖障子作業については、年々収益額が下がっている。家屋の洋風化が進み和風家屋が減ってきていることなどから、今後も個人依頼数の大幅な増加は見込めないが、借家・アパートなどの不動産関係や公共施設・旅館・ホテルなどの大型施設からの依頼数を増やすよう努める。受注範囲も更に広げ、臨機応変に対応できるようにする。

また、原材料の値上げが続いているので、在庫を減らし、注文数・注文方法を見直すなどコスト削減に努め、業務効率化を図り生産性を向上させるよう努める。

表 1

令和3・4年度 収益				
就労支援A型	内訳	令和3年度	令和4年度	前年度比
	役務作業	14,508,205 円	16,114,289 円	+11%
	畳作業	6,419,975 円	5,204,400 円	-19%
	合計	20,928,180 円	21,318,689 円	+2%
就労支援B型	内訳	令和3年度	令和4年度	前年度比
	清掃作業	5,312,110 円	5,489,880 円	+3%
	襖・障子作業	2,231,240 円	1,293,100 円	-42%
	合計	7,543,350 円	6,782,980 円	-10%

表 2

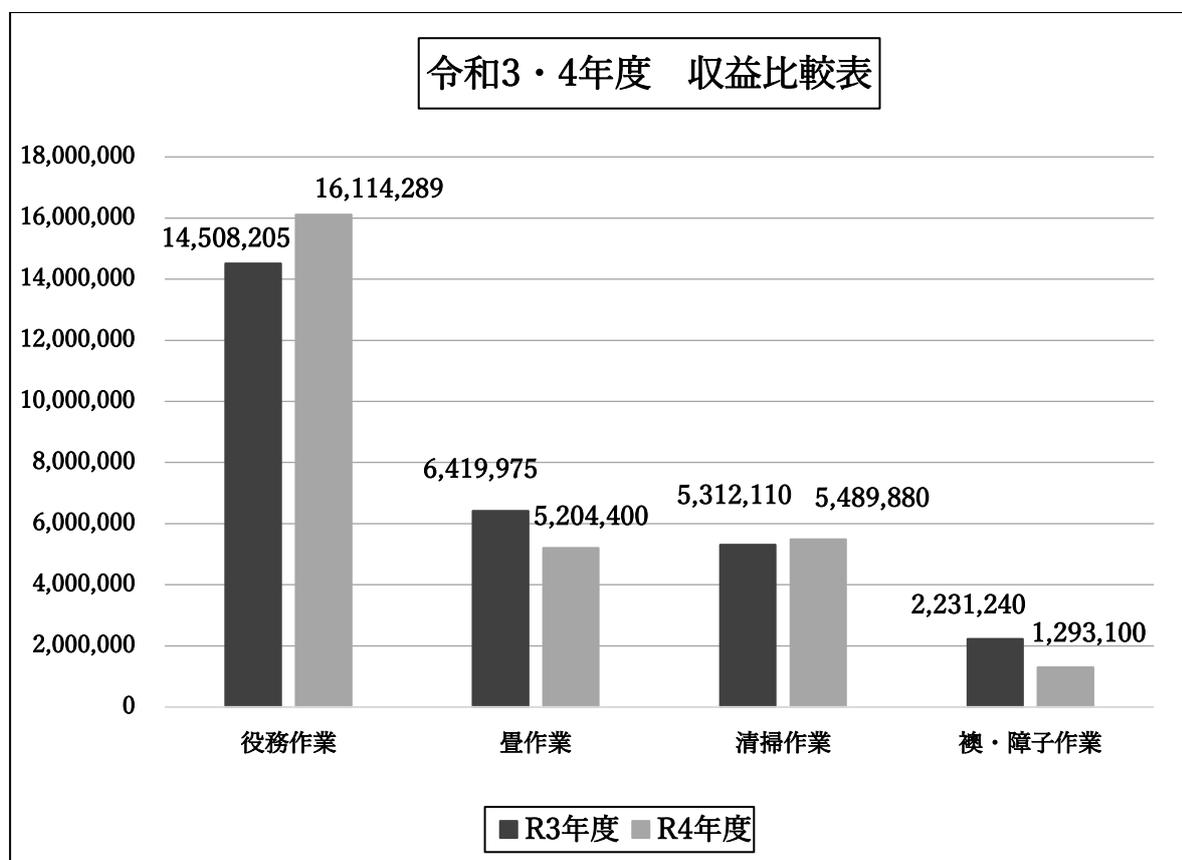
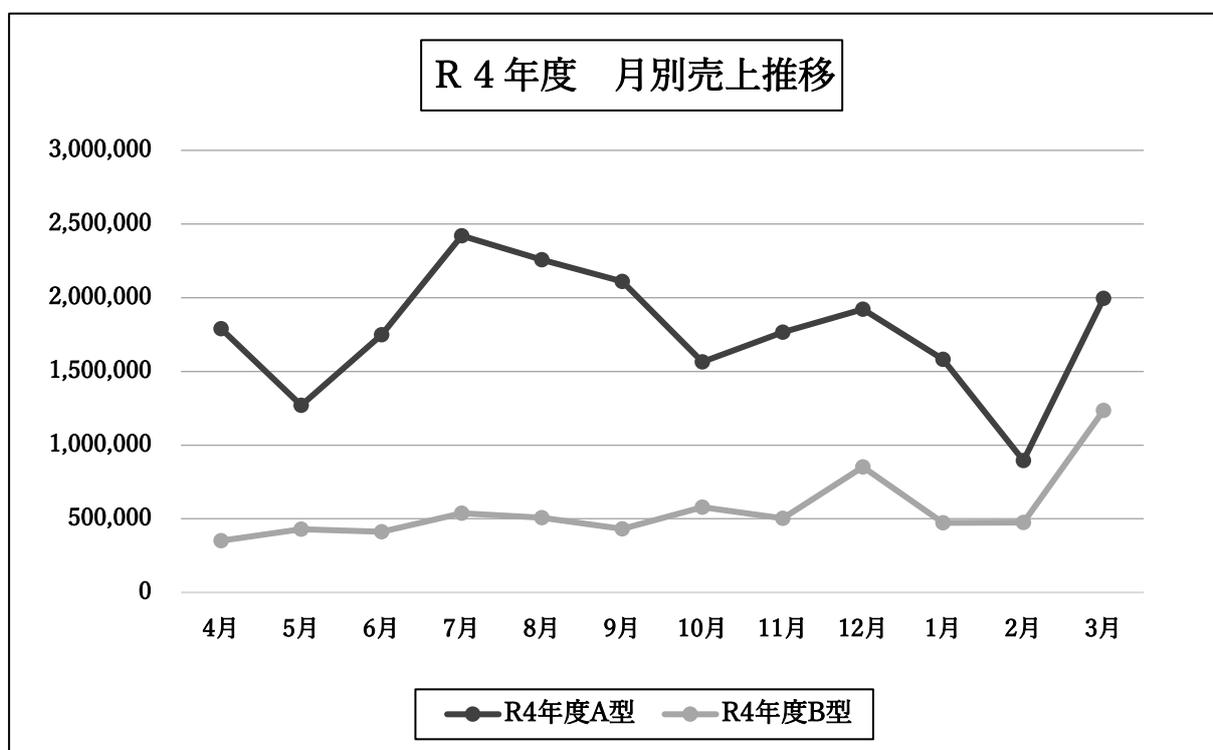


表 3

令和3・4年度 材料費				
就労支援A型	内訳	令和3年度	令和4年度	前年度比
	役務	0円	0円	-
	量材料費	4,045,096円	4,659,182円	+15%
	合計	4,045,096円	4,659,182円	+15%
就労支援B型	内訳	令和3年度	令和4年度	前年度比
	清掃	91,652円	89,368円	-2%
	襖・障子材料費	925,799円	731,293円	-28%
	合計	1,017,451円	820,661円	-19%

表 4



Ⅲ 利用者状況について

- ◆ 今年度の利用者状況は前年度と同様、A型定員 20 名中現員 14 名、B型定員 20 名中現員 18 名となっている。A型については、40 代～60 代利用者が 14 名中 10 名を占め、30 代以下の利用者が 4 名となっている。B型については、40 代～70 代利用者が 18 名中 15 名を占め、30 代以下の利用者は 3 名となっていて、若い世代の利用者数が極端に少ない。総体的に高齢化が進んでおり、これに伴って体力的な衰えが顕著になっている。今後も利用者の体調を考慮した支援体制を継続し、急な状況変化などに即座に対応できるよう、利用者の情報等について随時更新を行い職員間で共有していく。また、感染予防のための活動自粛など制約された状況が続いたことなどから精神的ストレスを抱えやすくなる中、一人一人の精神面に合わせた細やかな支援を心掛けていく。

利用者状況（令和 4 年度）

事業名	定員数	新規利用	事業変更・退所	現員	平均年齢
A型	20 名	0 名	0 名	14 名	45 歳
B型	20 名	0 名	0 名	18 名	56 歳

- ◆ 就労状況に関しては、コロナ関連による自宅待機が幾度かあり多少の影響があったが、前年度に比べ通常の日中活動を継続することができた。

令和 4 年度の賃金・工賃額は下表のとおりだが、A型・B型とも就労経費が生産活動収益額を上回っており、厳しい財政状況となっている。徹底した経費削減や適正な価格転嫁を進めて売上強化を図るなど、財政健全化に向けた取り組みが急務である。

利用者賃金・工賃（令和 4 年度）

事業名	支給総額	平均額	平均利用者数
A型賃金	16,198,779 円	99,379 円	12.5 名
B型工賃	5,251,130 円	25,005 円	15.7 名

IV 職員状況について

福祉サービス提供者としての基本姿勢・専門的知識・資格習得のための研修に参加し、職員の資質向上に努めた。

令和4年度 研修・会議

月	研修内容	参加人数
6	甲種防火管理講習	1名
10～	社会福祉主事資格認定通信課程	1名
11	社会福祉法人新任職員会計実務研修	1名
11	ZOOM 研修「生産活動から考えるインボイス制度について」	2名
2	社会福祉法人新任職員会計実務（決算）研修	1名
3	R4年度 集団指導（オンライン）	1名
3	「デジタルトランスフォーメーションを理解しよう」	2名

VI 防災・防火訓練報告

総合訓練を令和4年11月と5年3月の計2回実施し、職員、利用者への防災意識向上を行った。次年度も引き続き行っていき防災意識向上に努めていく。

また、地震や台風など大規模な自然災害が発生した場合を想定した、自然災害避難訓練を5年2月に実施し、速やかに動けるよう連絡網の確認等を行った。